

令和元年度 山形県立新庄神室産業高等学校 学校評価書

教育目標 (生徒像) 志高 創造 自立	幅広い知識と技術を身に付け、地域社会と産業の発展に寄与する人間の育成 柔軟な思考とたゆまぬ実践により、真理を探究する人間の育成 個性を尊重し、豊かな感性と創造性に富む人間の育成 心身ともに健康で、正義感あふれるたくましい人間の育成	学校 経営方針	「いのちをつなぐ」人づくり 自尊感情を高め、他者の生命や生き方を尊重し次世代に繋ぐ 「学び続ける」人づくり 知徳体を磨き、柔軟かつ的確に課題解決できる力を育む 「地域とつながる」人づくり ふるさとを愛し、地域の未来をきりひらく意欲と心を育む	めざす 学校像	規範意識を高めるとともに、社会性を育み自ら進んで行動する力を育成する学校 基礎学力の定着と向上を図るとともに、生徒個々の進路実現に向けたキャリア教育を実践する学校 特別活動を充実させるとともに、心身の健康と安全を図る学校 地域と積極的な交流を図るとともに、地域の活性化に貢献する学校 積極的な情報発信を行うとともに、有益な情報の共有を図る学校
---------------------------------	--	------------	--	------------	---

達成度・評価: A達成 B概ね達成 Cやや不十分 D不十分

重点目標		具体的方策と指導基準	自己評価 目標の達成状況、達成に向けた取組み状況と分析	達成度 (前年)	次年度に向けた方策 (評価)	学校関係者評価 (評価)	意見等
① 互いのいのちを尊重する ア 全ての生徒に自己有用感と 自尊感情を醸成させる イ 自分との違いを認め相手を 理解する寛さを身に付けさせる	② 基本的な生活習慣を身に付け、社会 の一員として自覚を深める ア メディアを活用し個性の 伸長をはかる イ 情報モラルやコミュニケー ション能力の向上をはかる	生徒に寄り添う丁寧で確かな面談を実施できたか	○生徒・保護者の相談に、迅速に対応し、有効な支援を行うことができた。 ○学年・部・学科の関係分掌間での情報共有と連携が有効に機能した。	B (B)	○スクールカウンセラーの助言を受けながら、相談体制のさらなる充実を図る。 ○GWTと生徒理解の職員研修を継続する。 ○生徒に関する情報共有体制をより一層の充実させる。	A (A)	○互いに個人を尊重し合いながら、成長を養成する学校運営を行っている点高く評価します。 ○社会に出て集団での生活をすべての生徒が出来るようになればよいと思う。
		法令遵守への対応が徹底できたか	○全職員による毎月の身だしなみ向上チェックは、生徒の意識向上と、基本的な生活習慣の定着に効果があった。 ○各学科の美音において、服装点検や安全指導を適切に行い、大きな事故や怪我がなく、未然防止ができた。	B (B)	○各分掌と連携して、問題行動の未然防止と指導を行い、問題行動ゼロを目指して取り組む。 ○授業や部活動等で、安全教育をより一層推進する。	B (B)	○全体的に達成している様であるが、SNSに關して、問題があるという点での改善して頂きたい。
		SNSの適正な利用の指導ができたか	○SNSに關する問題があり、継続して指導が必要である。 ○校内での携帯電話の利用マナーは全大敵に向上した。	B (B)	○携帯・スマホの利用とマナーの指導を継続していく。	B (B)	
③ 主権者意識を高める ア メディアを活用し社会情勢 への関心を高める イ 考えを主張し説得できる力を 身につけさせる	④ 確かな学力、 豊かな心、健 やかな体の育 成	1学級1新聞を活用し社会情勢に関心を持たせること ができたか	○毎日の朝学習のうち週1回、農工に関する記事を読ませることで、社会への関心や進路への意識を高めることができた。	B (B)	○1学級1新聞は継続的に実施していく。 ○新聞記事を題材にした授業展開や教材開発を行う。	B (B)	○基礎学力の定着と応用力を醸成するには、貴校と本校がさらに連携し、例えば、高校で3年、そして本校で2年の計5年間、一貫した共通テーマを設定して学びの質を高めるほうプロジェクト等に取り組むことも一考すべきです。
		積極的に自己表現できるスキルを身につけさせることができたか	○意見交換会や課題研究発表会は、自己の意見を述べたりパワーポイントを使ったプレゼン力を養うことができた。 ○教員推薦の課題図書や読書を通して、読書活動を推進させ、感想文作成に取り組みさせ、自己表現力の育成の役にたつた。	B (B)	○日頃の授業や行事などで積極的に発表の機会を設けていく。 ○図書選定や希望図書調査を継続し、校内外のコンクールへの応募により、読書意欲を向上させる。	B (B)	
		基礎学力が定着したか	○基礎力診断テストの結果を分析し、学年と共通認識を持って、朝学習用テキストの確認チェックテストを行ったが、基礎学力の向上にはつながらなかった。 ○定期テストでは、赤点保有者数と赤点総数ともに大幅に減少した。	C (C)	○朝学習の見直しや教科横断的な学習についての検討を行う。 ○検定や資格取得に対する意識の向上を図る。 ○教科・学科・学年が生徒の状況と指導方法に関する情報を共有する。 ○家庭学習を取り組ませる方策を検討する。	B (B)	○学力はある方が良いが誰とでも対行動し、自立を自ざしほしい。
② キャリア教育の充実をはかる ア 科目に基く総合的かつ系統的な 進路指導を実施する イ 学習のつまずきを放置しない 授業づくりを展開する	③ 確かな学力、 豊かな心、健 やかな体の育 成	低学年からの進路相談が充実しているか	○生徒・保護者と時々に合わせて面談を行い、進路や学校生活に対する不安を取り除いた。 ○産業基礎での職業レディテストやライブラリー発表、外部講師による意見交換会や現場見学を通して、自己理解を深め職業観を醸成した。 ○多数のジュニアマスタースタッフ取得者を出した。	B (B)	○進路希望調査等を踏まえ、面談を充実していく。 ○産業基礎を中心に計画的にキャリア教育を行う。 ○資格取得に向けた意識、意欲の向上を図る。	B (A)	○進路希望調査等を踏まえ、面談を充実していく。 ○産業基礎を中心に計画的にキャリア教育を行う。 ○資格取得に向けた意識、意欲の向上を図る。
		学習会、進路指導での組織的対応ができたか	○進路指導年間計画に基づき、進路指導部・学年・学科が連携して進路指導を行うことができた。 ○学習支援の先生方の協力により、基礎学力の補強を行うことができた。 ○進路交際対策は、学科による組織的な対応ができた。	B (B)	○生徒への早期の進路への意識付け ○企業訪問やハローワークとの連携強化を今後継続する。 ○企業の情報収集を積極的に行う。	B (A)	○生徒への早期の進路への意識付け ○企業訪問やハローワークとの連携強化を今後継続する。 ○企業の情報収集を積極的に行う。
		課題解決型学習の充実や発展がなされたか	○2学年の総合実習で基礎をつくることができた。 ○各学年で課題解決学習を行い、成果をまとめ発表する機会を設けた。 ○課題研究で、3年間の学びの成果をまとめることができた。	B (B)	○課題解決学習の段階的な取り組みを継続していく。	B (B)	
③ 能動的な学習(書く・話す・発表 する等)の推進をはかる ア 個々の生徒を伸ばす教科指導と 特別活動の充実をはかる イ 異なる考えも傾聴し協働して 課題解決できる力を身に付けさせる	④ 個に応じた支援体制の充実を はかる ア 継続した教育相談を行う イ 支援が必要な生徒の情報は 関係者間で確実に共有する	各情報理解と活用ができたか	○課題研究や調べ学習にタブレットを活用し、深い学びにつなげることができた。 ○生徒が図書や雑誌の選定や本のポスター作りを行い、読書推進に力を入れた。 ○インターシップや進路の報告会、課題研究発表会を通して、まとめ方や発表の仕方、プレゼン力を養い、また発表・プレゼンを理解する力がついていた。	B (B)	○授業やHRで活用できる視聴覚教材の充実を図り、図書等の利用環境向上を目指すしていく。 ○課題研究の内容をまとめて発表する。 ○新学習指導要領に準拠した授業を展開する。	B (B)	○授業やHRで活用できる視聴覚教材の充実を図り、図書等の利用環境向上を目指すしていく。 ○課題研究の内容をまとめて発表する。 ○新学習指導要領に準拠した授業を展開する。
		授業や読書、対話等で得た知力を活用したアクティブラーニングの実践ができたか	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、研究授業を通して授業改善に努めた。 ○学習で得た知識を活かし、修学旅行では班で協力しながら充実した研修となった。	B (B)	○引き続き教科担当者を実施していく。 ○科余の授業時間内設定を要望する。 ○引き続きSCの取り組みを継続していく。	B (B)	
		関係機関との連携による実効的な取組を推進したか	○SSCの協力によって、きめ細やかな相談と対応が行き届いた。 ○ABC委員会やケース検討会で関係分掌の連携と情報共有を図り、生徒や保護者に適切に対応することができた。	B (B)	○引き続きSCの取り組みを継続していく。	B (B)	
② 地域と連携する ア 課題解決実践・成果還元 イ 家庭と関係機関との情報共有 とともに地域への感謝の心を 醸成する	③ 地域と連携する ア 地域課題発見に努める イ 地域活動への参画を推進する	課題解決型プロジェクト学習の推進ができたか	○2年生の総合実習で基礎を築くことができた。 ○ミニノクヒメコリ、ラズベリー、伝承豆、キノコ等地域の特性を生かしたプロジェクト学習を推進・展開できた。 ○課題研究で地域に目を向けたテーマに多く取り組み、地域への理解とつながりが深まった。	B (B)	○課題研究で、地域課題に取り組み、地域への貢献の意識を定着・向上させる。 ○ボランティア・地域行事の紹介を、迅速に行う。	A (A)	○課題解決型学習について、仲間同士で議論を重ね、旅行と失敗を繰り返しながら、成功する各取り組みにより、達成感と生徒の自信につなげ、速く成長を促すことを実行しています。 ○地元愛・郷土愛・生まれた所が一番に思える心を持ってもらいたい。
		ボランティア活動・地域行事への参加が積極的であったか	○生徒指導部や学年が呼びかけたが、生徒の参加は限定的だった。 ○もみが大産葉まつりは台風の中止と中止となったが、農産物まつり、農大祭等様々なイベントに積極的に参加することができた。 ○学校説明会と日程が重なったため、毎年参加していた木工工員も参加できなくなった。	B (B)	○中学校へのプレゼンでは、中学3年生は他校の高校体験学習にも参加しているため、他の高校との違いをより早く周知してもらうため、これから進路を考える中学2年生を対象とした活動を検討する。 ○行政機関や企業・農業法人など、外部機関との連携と協力を継続する。	B (B)	○地域との係わり、特にボランティア活動等は高校生になると中々参加したくないようだ。
		最上地域市町村との連携ができたか	○新庄中核工業団地立地協議会に参加し、企業との協働や地域行政機関との連携強化を図った。 ○本校卒業生を講師として、最上地域中学12校のうち8校で、中学生や中学教員を対象に、本校の生活や進路実現についてのプレゼンを実施し、本校の特色や専門高校の長所を再理解してもらったことができた。 ○生徒保健委員会は、学校祭で活動報告や血圧測定、アルコールパッチテストなどを行い、来校者に健康意識を啓蒙した。 ○地元企業OBとの座談会や最上地域企業ガイダンスを開催し、地元企業を知る機会となった。 ○課題研究やインターンシップ、産業視察、ガイダンス等を通して、農業科・工業科とともに地域との連携を深めた。	B (B)	○実施後必ずアンケートや評価を行い、検討する。 ○複数年単位の計画を実施する。 ○今後は地域産業の担い手育成に向けて、関係機関の協力・連携を継続する。	B (B)	
③ 地域に発信する ア 唯一の定期更新を行い、 新鮮な学校情報を提供する イ 学校を取り巻くネットワー クの拡大・充実を進める	④ 行事前後の学校情報の提供ができたか	10月に開催される農工全国大会(クラブ員代表者会議)を学校挙げて成功させることができたか	○学校ホームページのアップを迅速に行なった。 ○農工クラブ全国大会は、来賓や参加者へのおもてなしや、クラブ員代表者会議を運営することで、農業科生徒が活躍し成長した。 ○農工全国大会は、農業科以外の生徒・職員との交流を最上総合支庁との連携で実施予定である。 ○地元企業において、教員及び生徒の中長期研修を行い、技術的向上に努めることができた。	B (A)	○他分掌と連携し、これからは学校ホームページの充実が努力したい。 ○農工全国大会の経験をもとに、次年度の農工クラブ活動に活かせるように指導する。	A (A)	○他分掌と連携し、これからは学校ホームページの充実が努力したい。 ○農工全国大会の経験をもとに、次年度の農工クラブ活動に活かせるように指導する。
		行事前後の学校情報の提供ができたか	○学年通信や学級通信、学科より時宜に合わせて発行し、生徒や学校の様子を適切に発信することができた。	B (A)	○時宜に応じて迅速に情報発信・更新する。	A (A)	
		意見等への丁寧な対応ができたか	○学校保健委員会、学校医や学校薬剤師学校から、生徒の健康管理について有益なアドバイスを頂いた。	B (A)	○アドバイザーに対し迅速・的確に対応する。	A (A)	
人的ネットワーク構築ができたか		○中学工業団地との情報交換、最上地域企業ガイダンスといった新たな取り組みや協議の場を設けることができた。	B (A)	○これまでの取り組み状況も踏まえ検討する。	A (A)		